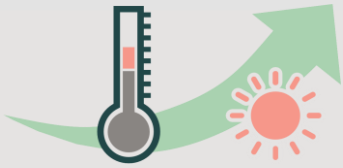
気候変動 〉 人間の安全保障およびSDGsの達成

人間の安全保障における気候変動対策の重要性



気候変動の影響により、気候の極端現象の強度・頻度が変化し、それにより人々の命・暮らしが脅かされています。気候変動への対策を取らない限り、経済社会への影響は増大し、将来にわたりその状況は悪化し、国際社会全体の人間の安全保障への大きな脅威となると予測されています。

人間の安全保障のアプローチの実践を通じたJICAの貢献

気候変動という地球規模の課題に対し、JICAは国際社会や途上国と「連帯」して貢献します。開発途上国は特に気候変動の負の影響を受けやすく、脆弱な人々ほどその影響への対応が困難であり、JICAは、途上国の対策能力向上に協力し、気候変動にレジリエントで持続可能な開発を通じ、人間の安全保障の実現を目指します。

JICAは、人間の安全保障のアプローチである「保護」と「エンパワメント」を組み合わせ、緩和策と適応策に取り組み、気候変動に対するレジリエンスを高めます。具体的には、コベネフィット型気候変動対策を通じて、途上国の脆弱な人々が気候変動の影響に適応できるための能力を強化するなど、レジリエントな社会を作り、また温室効果ガスの排出を抑えつつ経済発展していくことができるよう支援します。また、緩和策・適応策に関係する多様なセクターの各種計画（国・都市・地域レベル）の策定や実施、モニタリングなどに必要な技術の向上や、気候変動に取り組む組織の対応能力の強化を行うことで、途上国の気候変動対策を促進します。

SDGsへの貢献

SDGsゴール13「気候変動に具体的な対策を」、特に以下のターゲットの達成に貢献します。

13.1：すべての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靭性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。
13.2：気候変動対策を国別の政策、戦略及び計画に盛り込む。
13.3：気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

写真提供：JICA

干ばつなどの気候リスクに脆弱な地域で、子供たちを対象に、灌水栽培による野菜生産・摂取による栄養改善の取り組み。

写真提供：久野真一/JICA

河川の氾濫による洪水リスクが高い地域で、河川の護岸工事を実施。住民による持続的な護岸ブロックのメンテナンスも行われている。